

三野地区まるみプラン 第1回ワークショップの様子 (R4.7.27)



●導入説明

「住みやすい地域ってどんな地域?」「困りごとって何?」「自分にできることって何がある?」趣旨説明のあと、初回の今日は、ゲームをしながらきっかけを考えました。

●助け合いゲーム実施

・3班に分かれ、自己紹介をしました。カードゲームをしながら、身近な支え合いのしくみについて、地域の大人と一緒に考えました。中学生も積極的に参加して、自分が出来そうなことを引き受けたり、助けてほしいことをお願いしました。また、ゲームを通じて初対面の地域の人にも、自分のことを知ってもらおうきっかけとなりました。

(助け合いゲームの様子)



●グループワーク実施

三豊市が実施したアンケート結果から、“若い年齢層に向けた社会活動やボランティア活動への参加促進”が課題としてあげられていました。『若い世代の人達も地域活動やボランティアに参加するためには、どういう働きかけや取り組みがあればいいのでしょうか?』をテーマに、グループワークを行いました。

時間いっぱい、班ごとに意見を出し合い、付箋紙に自分の意見を書きました。
最後は、班ごとにどういう意見が出たか、報告しました。



テーマ：若い世代の人達も地域活動やボランティアに参加するためには、どのような働きかけや取組があればいいでしょうか？

- イベントに参加しながら、ついでにゴミ拾いするなど、ながらボランティア、ついでにボランティアの推奨
- ボランティアに参加したら Mitopay ポイント等もらえる仕組み作り（そのポイントを使って手伝いをしてもらえる等ギブアンドテイクの仕組み通り）
- 友達同士で誘い合う、周りに参加を呼び掛ける
- SNSやライン等を利用して参加を呼び掛けたり、参加後の感想等を発信したりする（ボランティアの楽しさを広める）
- チラシやポスターを作り掲示する。活動している様子の写真を載せる
- 店や市役所などの人の目につくような場所にチラシなどを貼る
- 子どものころから地域活動やボランティアに参加できるように親子で参加できるイベントを企画する
- その日のいつ参加しても良いというルールを決める
- 自分の得意なことは何か、知っておく
- 時間を作る（意識して作らないと何もできない）
- ちょっと手伝って～！とその場で声をかける
- 身近な行事に参加
- 友達と一緒に行動、友達を誘う、参加したそうな人に呼び掛ける（同様の意見多数）
- どんなボランティアがあるか知ってもらう
- 誰にでも気軽に声かけして友達を増やす
- グループで参加しやすいものを多くする
- 若い人が楽しく取り組めるような活動を考える
- ボランティア活動の要件を明確化する
- 情報発信
- 周りからの情報をキャッチする気持ちを持っておく
- ボランティアのメリットを表現する

【今回、中学生が参加したきっかけ】

- 中学校で募集してくれたから（チラシを見て）
- 友達に誘われたから
- 同じ学年の人が多く参加していたから
- 小学生の時やったことがなくて、何をするのか知りたかったから
- 夏休みで時間に余裕があったので参加してみた（＝長期休暇中はボランティアにも参加しやすい）
- 親に誘われた